

今日ここに集いし我々は、この冬の長く厳しい寒さを耐え抜いて、暖かな春の日を迎える事が出来ました。

福山市長代理・廣田副市長のご出席・小林市議会議長・吉岡市老連会長・池口元老大学長をはじめとする多くのご来賓、講師の先生方のご臨席を賜って、福山市老人大学二〇一三年度・第四三期修了式が挙行できましたことを大変ありがたく嬉しく思います。

一九七三年六月に開校式を行い、教養・書道・園芸・手芸の四教科、学生数三五一名で発足した本学は、今年度が、創立四〇周年の大きな節目の年度でありました。

一〇月三日の記念式典を始めとする様々な記念事業を行なってきましたが、その中でも四〇周年記念誌の編纂を通して思いましたことは、本学は、日本の伝

統文化の継承に努めるとともに、新たな時代に対応した多様な教科を増設して、高齢者の生き甲斐づくりと健康増進に多大な貢献をし、老人生本人はもとよりそのご家族や地域社会にとっても有意義な存在として発展してきたということでもあります。

今年もこの一・二月に教育実習にやってきた看護専門学校生達が、次のような老人生の声を聞きとってくれました。

・ 私は転んで足を悪くして、大学を半年お休みしとったけど、その間(あいだ)、大学の友達に会いたくて、それを励みにリハビリを頑張ったのよ。

・ 別のクラスに九二歳の方が居るんだけど、その人を見る度に、私もあんな風になりたいと活力を貰えるんですよ。

・ これまで仕事一筋で来たけど、仕事を辞めて若い頃の趣味を再開した。体は追いつかんけど、心は若

返った。

・この大学は、居心地が良い。他の所の習い事だと若い人に気を使って疲れるけど、老犬はそんなことがなくて楽しい。

そして、看護学生は、教育実習のレポートに、「毎週、授業で活けた花を家で飾って眺めるのが好きなの。大学で習ったように、自宅にバラ園を造ってみた」など、大学内の活動に留まらず、日々の生活をより豊かにする役割を担っていることがわかった。

年齢を言い訳に、自分らしさを発揮したり興味関心を進及できたりする機会を妨げられることなく、高齢者が積極的に人生を歩み、生き甲斐を感じられる老人大学は、高齢社会にあつてとても重要な存在だと実感した。と書いていました。

昨年度末、老犬生の車の運転マナーや駐車場の使い

方について、ご近所の元老大生と言われる方から、手続きの多い投書をいただいた件については、この一年、今の条件の中で出来る最大限の取り組みをさせていただきました。

二七〇〇名近い学生の約半数の方が、自家用車通学を希望されています。講座開設日には、八〇台収容の駐車場を目指して一五〇台の自家用車が殺到し、止む無く通路への詰め込み駐車となり、下校時の出庫に手間取り、声を荒げる場面も起きていました。

そこで今年度は、「交通マナーを守り、ゆつくり帰ろう」と呼びかけさせていただくとともに、出庫のお手伝いを率先して行なうことで、多くの学生の理解と協力を得て、今では授業終了後一〇分余りで皆さんに下校していただけるまでに改善することが出来ました。

今日この後の老犬講師によるステージ発表で、創立四〇周年記念の全ての事業を終了します。

来月からの新年度は、創立五〇周年に向けた新たな一〇年の歩みの始まりです。

しかし、益々少子高齢化が進む我が国では、高齢者は社会の多数者となり、これからの一〇年は、これまでのように高齢者に優しく親切的な社会ではなくなっていくことが心配されます。

高齢者は社会の重要な構成者として、社会貢献に取り組むことが求められるようになります。

そこで、まずは、「日々、健やかに・穏やかに・和やかに過ごす」ことで、社会の安定に寄与する。

次に、「自分達で出来ることは自分達でする」自助努力に努める。

そして、「元気な高齢者は大いにボランティア活動に取り組む」ことで、遣り甲斐・生き甲斐を高める。

こうしたことに心掛けることが大切になって来るように思います。

老人大学は、六年前から社会福祉協議会の支援を得て、ボランティア育成講座を開設し、ボランティアの心と技を学んだ学生が、高齢者施設への訪問活動などに取り組んでいます。

五年前から福山夏祭り二上り踊りに一〇〇名の踊り連を結成して出演しています。

昨年七月からは、「バラづくり講座」を開設し、その学習成果を家庭や地域に還元する取り組みを始めようとしています。

教養講座では、高齢者の健康や安全に関する学習に加えて、福山の歴史と都市ブランドの推進をテーマとする講座を開設しています。

また、特別講座で、「福山知つとる検定」を目指して勉強し、大勢が受験しています。

今年一月には、特別講座の特別な企画として、学

生を主演者とするするマジックショーを開催しました。雨の中を、一〇〇名を超える学生が詰めかけ、主演者の素晴らしい笑顔と絶妙な語りから次々に繰り出されるマジックにみんな身を乗り出し大笑いしながら、あつという間の四〇分を過ごしました。

これに習って今後は、学生が講師役を務める特別講座も企画していきたいと考えています。

更に、今回初めての取組みとして、福山市成人健診課の要請を受け、去る二月二八日に老人大学を会場に一二〇名が健康診査を受診しました。そして、来る八月五・六日に来年度の健康診査を同じく老人大学を会場に実施することとしています。

これからの老人大学は、高齢者の生涯学習の場であることはもとより、関係機関の協力を得て、高齢者の健やかな生活を応援する直接的な活動や交通事故防止のために交通マナーの向上をめぐした日常指導を通

して、老大学生がより健全な社会生活を過ごさせるよう
更に支援していく決意を申し述べて、今年度を修了
するにあたっての式辞といたします。

二〇一四年(平成二六年)三月一八日

福山市老人大学 学長 高橋 和男